

段落相互の関係の把握 通過率49.9%

この問題は、説明的な文章の読み取りについての新問題である。出題の意図は、説明文中の実験と結果の対応がとらえられているかどうかをみることである。

調査結果から、文章の展開に即して、段落相互の関係を的確にとらえる力の定着が不十分であることが分かる。

関連する調査項目

■ 平成22年度「基礎・基本」定着状況調査
生徒質問紙調査「生活と学習に関する意識・実態」
「国語の授業では、段落と段落のつながりや文章全体の組み立てに注意して文章を読んでいます。」

あてはまる 49.8%

学校質問紙調査「指導方法」

「教科書教材で身に付けた基本的な技能を使って、教科書教材以外の文章の要点や段落相互の関係を読み取らせる指導」をしている。

あてはまる 38.7%

日高敏隆

「セミたちと温暖化」春の数えかたの食いちがい?』による。

「一つの部屋は暖房を入れて暖かくしてやった。けれど昼夜の長さは自然のままにしておいた。」という実験が行われましたが、その結果が書かれている段落はどれですか。段落ア～エの中から最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。

主な誤答と無解答の割合(%)

主な誤答	割合
エ	23.6
イ	21.0
無解答	1.5

誤答エ・イ

別の実験の結果が書かれている段落を選んでいる。【44.6%】

段落相互の関係をとらえる方法を指導していますか?

○ 既習の教材等を利用して、段落相互の関係には、どのような関係があるのかを押さえましょう。

<例>

- ・ 意見と根拠の関係
- ・ 問いと答えの関係
- ・ 実験と結果の関係

○ 段落相互の関係を図や表にして、矢印などの記号を使って段落の対応関係を整理させましょう。

教科書教材で学習した読み方を他の文章を読む際に活用させていますか?

○ 教科書教材以外の説明文を取り上げ、筆者の主張が書かれている段落、主張の根拠となる段落などをとらえさせましょう。



行書の基礎 通過率54.2%

平成 14～22 年度の「基礎・基本」定着状況調査の結果をみると、問題の傾向によって通過率が違うことから、行書の基礎的な知識の定着が不十分であることが分かる。

これまでの誤答の状況から、行書の特徴を確実にとらえていないことが明らかになった。

<経年比較>

総画数をとらえる問題		行書の特徴をとらえる問題	
年度	通過率(%)	年度	通過率(%)
—	—	平成 22 年度	54.2
平成 20 年度	79.5	平成 21 年度	69.8
平成 16 年度	83.0	平成 19 年度	64.4
平成 15 年度	67.0	平成 18 年度	63.6
平成 14 年度	80.6	平成 17 年度	47.8
上記年度の 通過率の平均	77.5	上記年度の 通過率の平均	60.0

ア
続
イ
花
ウ
海
エ
指

次のア～エは、それぞれの漢字を行書で表しています。誤って書かれているものを一つ選び、その記号を書きなさい。

主な誤答と無解答の割合(%)

主な誤答	割合
ア	22.4
イ	16.8
ウ	5.5
無解答	0.9

誤答 ア・イ・ウ

行書の特徴をとらえていない。【44.7%】

➡ **楷書との違いを明確にして、行書の特徴をとらえさせていますか？**

- 出来上がった行書の字形を覚えさせるだけではなく、点画が連続する過程など、楷書からどのように行書に変化するかを明確にして行書の特徴(点や画の方向及び止めや払いの形の変化、点や画の連続・省略、筆順の変化等)をとらえさせ、その合理性や効率性を理解させましょう。

➡ **行書の学習を日常生活に生かすように指導していますか？**

- 漢字の指導や「書くこと」の領域における言語活動の際などに、書写で学んだ行書の特徴を踏まえさせて文字を書かせましょう。
また、日常生活でよく書く言葉(氏名、住所、手紙で用いられる時候のあいさつなど)を練習させ、様々な機会を得て書かせましょう。

